

「青春謳花」

花き装飾コース

1. はじめに

私は高校3年生の頃にフラワー装飾技能士3級を取得し生花に触れる楽しさと、それを色々な人に共有したいという思いから生花店で働きたいという夢を叶えるため園芸アカデミーに入学した。入学後は生産や造園についても勉強しつつ室内園芸装飾技能士3級、フラワー装飾技能士2級を取得し生花店で働くうえでの技術を向上させ、日頃の授業でフラワー装飾についての知識や、技術などについて学んできた。インターンシップを行い生花店で働く知識や技術を身に付けていく中で、自分に何が欠けているか考えた結果、お客様の注文した花束を制作する力が自分には欠けていると感じた。

そのためにはまず、イメージを花束で表現する技術が必要となる。卒業制作では1つ1つの花束にテーマを決めて形にする技術力と想像力の向上を目指し、「青春謳花」というタイトルのもと、高校時代の思い出や経験を花束で表現することとした。

2. 制作作品

(1) 「TIAM」



(2) 「夕焼けシャボン玉」



(3)「青春謳花」



(4)「輝きの見つけ方」



3. まとめ

自分の思い出を具現化する「青春謳花」は短い期間であったがとても充実した時間だった。抽象的な思い出を色彩や植物の形状からイメージし試行錯誤しながら組んでいく。どう組めばその植物を活かすことができるか。全体で見たときにまとまりがあるか。イメージに沿った作品になっているか。頭で考えるのは簡単だが、実際に自分の手で制作する技術、知識不足のあまりうまく形にすることができず、最初はとても大変だった。

先生の助言や、デザインの資料を参考に日々前進し植物に向き合っていくことで段々コツをつかんでいき、制作後半あたりではイメージした作品を制作できるようになっていった。注文式花束ではその人の望む花束を制作するために花束のイメージを話し合い、自分の中にある表現のパターンと組み合わせて制作した。実際に来店されるお客様は注文される際、イメージがうまく固まってない場合もある。その時に制作をする上でお客様のイメージをうまく引き出させるにはどのような会話をするかその予行練習ができた。

今回の卒業制作の知識や技術だけでは自分の制作した注文の花束を100%最高の花束だと言い切れなかった。誰が見ても最高だと思えるそんな素敵な花束を制作できるようになるには卒業後も日々前進しなければならない。大変だとは思いますが、花に触れる楽しさを知っているため楽しい気持ちで毎日進化し続けることができると思う。自分の大切な思い出を今の自分が表現する。制作しながら自分の思い出も振り返れてとても暖かい時間を過ごせた。タイトルの元となった「青春謳歌」には青春時代を大切な時間とし、青春を楽しむという意味が込められている。花と生きた大切な時間これからも花と共に生きていきたい。自分の「青春謳花」は終わることなく日々更新をしていく。